

津市監第475号
平成27年10月29日

津市長 前 葉 泰 幸 様

津市監査委員 高 松 和 也
津市監査委員 駒 田 修 一
津市監査委員 安 藤 友 昭
津市監査委員 倉 田 寛 次

平成26年度財産区会計歳入歳出決算の審査意見について
(提出)

地方自治法(昭和22年法律第67号)第233条第2項の規定に基づき審査に付された下記の平成26年度財産区会計歳入歳出決算の審査意見について、別添のとおり提出します。

記

- 1 平成26年度榊原財産区会計歳入歳出決算の審査意見
- 2 平成26年度河内財産区会計歳入歳出決算の審査意見
- 3 平成26年度波瀬財産区会計歳入歳出決算の審査意見

平成 2 6 年 度

榑 原 財 産 区 会 計
歳 入 歳 出 決 算 審 査 意 見 書

津 市 監 査 委 員

凡 例

- 1 文中及び表中に用いる金額は、原則として千円未満を四捨五入した。
- 2 文中及び表中に用いる比率は、原則として小数点以下第2位を四捨五入した。
- 3 文中及び表中に用いる面積は、原則として1平方メートル未満を四捨五入し、体積は、原則として1立方メートル未満を四捨五入した。
- 4 上記のように表記した結果、文中及び表中の合計数値とその内訳の累計値とは、一致しない場合がある。
- 5 表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「0」「0.0」・・・金額、比率において、零又は該当数値がないもの若しくは単位未満のもの
 - 「-」・・・・・・比率において、±1,000%以上のもの
 - 「△」・・・・・・金額、比率において、負数のもの

平成 26 年度榊原財産区会計歳入歳出決算審査意見

第 1 審査の対象

審査の対象は、平成 26 年度榊原財産区会計歳入歳出決算、決算に関する証書類、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書である。

第 2 審査の期間

審査の期間は、平成 27 年 8 月 31 日から同年 10 月 27 日までである。

第 3 審査の方法

審査の方法は、同会計の歳入歳出決算について、主に次の諸点に着眼し、関係書類により照合審査するとともに、関係職員に説明を求め、例月現金出納検査の結果も参考とした。

- 1 決算の計数は、正確に表示されているか。
- 2 決算書等は、法令の定めるところにより、適正に作成されているか。
- 3 予算は、適正に執行されているか。

第 4 審査の結果

審査の結果、同会計の歳入歳出決算の計数は正確で、決算書等はいずれも適正に作成されており、予算の執行については、適正に執行されているものと認めた。歳入歳出決算の状況等は、次のとおりである。

1 歳入歳出決算の状況

歳入決算額は 2,493 万 9 千円（表 1 参照）、歳出決算額は 2,230 万 6 千円（表 2 参照）で、歳入歳出差引額は 263 万 3 千円となり、翌年度へ繰り越すべき財源 33 万 1 千円を差し引いた実質収支額は 230 万 2 千円である。

歳入及び歳出それぞれの内訳は、次のとおりである。

(1) 歳 入

歳入の内訳は表 1 のとおりで、決算額の主なものは、財産収入 2,211 万 9 千円、繰越金 281 万 9 千円である。

表 1 歳入内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成26年度				平成25年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	予算比				
財産収入	22,199	22,119	88.7	99.6	21,683	91.1	436	2.0
繰入金	3,842	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
繰越金	2,819	2,819	11.3	100.0	2,126	8.9	693	32.6
諸収入	2	1	0.0	50.0	1	0.0	0	0.0
計	28,862	24,939	100.0	86.4	23,809	100.0	1,130	4.7

(2) 歳 出

歳出の内訳は表 2 のとおりで、決算額の主なものは、財産費 1,241 万 3 千円、諸支出金 740 万 4 千円である。

諸支出金においては、林道等整備事業土地所有者負担金に係る繰越明許費 33 万 1 千円が翌年度に繰り越されている。

表 2 歳出内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成26年度				平成25年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	執行率				
議 会 費	1,567	1,496	6.7	95.5	1,574	7.5	△ 78	△ 5.0
総 務 費	1,560	975	4.4	62.5	406	1.9	569	140.1
財 産 費	16,908	12,413	55.6	73.4	11,973	57.0	440	3.7
積 立 金	19	18	0.1	94.7	16	0.1	2	12.5
諸 支 出 金	8,708	7,404	33.2	85.0	7,021	33.4	383	5.5
予 備 費	100	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	28,862	22,306	100.0	77.3	20,990	100.0	1,316	6.3

2 財産に関する調書

財産の平成 26 年度中の増減高及び平成 26 年度末現在高は、次のとおりである。

(1) 公有財産

公有財産の状況は表 3 のとおりで、土地の合計面積は、山林の直営で 336 平方メートル増加したものの、山林の貸付で 428 平方メートル減少したことから、92 平方メートル減少し、平成 26 年度末現在高は 1,226 万 4,036 平方メートルである。

立木の推定蓄積量は、平成 26 年度中に 2,175 立方メートル増加し、平成 26 年度末現在高は 11 万 6,966 立方メートルである。

出資による権利については、平成 26 年度中の増減はなく、平成 26 年度末現在高は 84 万円である。

表 3 公有財産の状況

区 分		単 位	平成 25 年度末現在高	平成 26 年度中増減高	平成 26 年度末現在高	
土 地	公共用財産(その他の施設)	m ²	918	0	918	
	山 林	直 営	m ²	1,860,463	336	1,860,799
		貸 付	m ²	10,402,747	△428	10,402,318
	合 計		m ²	12,264,128	△ 92	12,264,036
立木の推定蓄積量		m ³	114,791	2,175	116,966	
出資による権利		千円	840	0	840	

(2) 物 品

物品は軽貨物自動車で、表 4 のとおり平成 26 年度中に増減はなく、平成 26 年度末現在高は 2 台である。

表 4 物品の状況 (単位：台)

区 分	平成25年度末現在高	平成26年度中増減高	平成26年度末現在高
軽 貨 物 自 動 車	2	0	2

(3) 基 金

基金は榊原財産区財政調整基金で、表 5 のとおり平成 26 年度中に 1 万 8 千円増加し、平成 26 年度末現在高は 2,341 万円である。

表 5 基金の状況 (単位：千円)

区 分	平成25年度末現在高	平成26年度中増減高	平成26年度末現在高
榊 原 財 産 区 財 政 調 整 基 金	23,392	18	23,410

3 まとめ

平成 26 年度は、平成 25 年度から 281 万 9 千円の繰越金があったこともあり、財政調整基金からの繰入金を必要としなかったところである。引き続き、中長期的な視野に立った計画的な財政運営に取り組まれるよう望むものである。

平成 2 6 年度

河 内 財 産 区 会 計
歳 入 歳 出 決 算 審 査 意 見 書

津 市 監 査 委 員

凡 例

- 1 文中及び表中に用いる金額は、原則として千円未満を四捨五入した。
- 2 文中及び表中に用いる比率は、原則として小数点以下第2位を四捨五入した。
- 3 文中及び表中に用いる面積は、原則として1平方メートル未満を四捨五入し、体積は、原則として1立方メートル未満を四捨五入した。
- 4 上記のように表記した結果、文中及び表中の合計数値とその内訳の累計値とは、一致しない場合がある。
- 5 表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「0」「0.0」・・・金額、比率において、零又は該当数値がないもの若しくは単位未満のもの
 - 「－」・・・・・・比率において、±1,000%以上のもの
 - 「△」・・・・・・金額、比率において、負数のもの

平成 26 年度河内財産区会計歳入歳出決算審査意見

第 1 審査の対象

審査の対象は、平成 26 年度河内財産区会計歳入歳出決算、決算に関する証書類、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書である。

第 2 審査の期間

審査の期間は、平成 27 年 8 月 31 日から同年 10 月 27 日までである。

第 3 審査の方法

審査の方法は、同会計の歳入歳出決算について、主に次の諸点に着眼し、関係書類により照合審査するとともに、関係職員に説明を求め、例月現金出納検査の結果も参考とした。

- 1 決算の計数は、正確に表示されているか。
- 2 決算書等は、法令の定めるところにより、適正に作成されているか。
- 3 予算は、適正に執行されているか。

第 4 審査の結果

審査の結果、同会計の歳入歳出決算の計数は正確で、決算書等はいずれも適正に作成されており、予算の執行については、適正に執行されているものと認めた。歳入歳出決算の状況等は、次のとおりである。

1 歳入歳出決算の状況

歳入決算額は 37 万 2 千円（表 1 参照）、歳出決算額は 22 万 6 千円（表 2 参照）で、歳入歳出差引額は 14 万 6 千円である。

歳入及び歳出それぞれの内訳は、以下のとおりである。

(1) 歳 入

歳入の内訳は表 1 のとおりで、決算額の主なものは、繰入金 23 万円、繰越金 14 万円である。

表 1 歳入内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成26年度				平成25年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	予算比				
財産収入	2	1	0.3	50.0	1	0.2	0	0.0
繰入金	288	230	61.8	79.9	370	65.1	△ 140	△ 37.8
繰越金	150	140	37.6	93.3	197	34.7	△ 57	△ 28.9
諸収入	10	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	450	372	100.0	82.7	568	100.0	△ 196	△ 34.5

(2) 歳 出

歳出の内訳は表 2 のとおりで、決算額の主なものは、議会費 20 万 4 千円、財産費 2 万円である。

表 2 歳出内訳表 (単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成26年度				平成25年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	執行率				
議 会 費	234	204	90.3	87.2	210	49.1	△ 6	△ 2.9
総 務 費	45	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
財 産 費	136	20	8.8	14.7	216	50.5	△ 196	△ 90.7
基金積立金	2	1	0.4	50.0	1	0.2	0	0.0
予 備 費	33	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	450	226	100.0	50.2	428	100.0	△ 202	△ 47.2

2 財産に関する調書

財産の平成 26 年度中の増減高及び平成 26 年度末現在高は、次のとおりである。

(1) 公有財産

公有財産の状況は表 3 のとおりで、土地と建物の面積に増減はなく、平成 26 年度末現在高は、土地が 13 万 278 平方メートル、建物が木造 1 棟 63 平方メートルである。

立木の推定蓄積量は、平成 26 年度中に 359 立方メートル増加し、平成 26 年度末現在高は 21,645 立方メートルである。

表 3 公有財産の状況

区 分		単位	平成25年度末現在高	平成26年度中増減高	平成26年度末現在高
土地	山 林	m ²	130,278	0	130,278
建物	旧津市河内公民館	m ²	63	0	63
立木の推定蓄積量		m ³	21,286	359	21,645

(2) 基 金

基金は河内財産区財政調整基金で、表 4 のとおり平成 26 年度中に 22 万 9 千円減少し、平成 26 年度末現在高は 518 万 8 千円である。

表 4 基金の状況 (単位:千円)

区 分	平成25年度末現在高	平成26年度中増減高	平成26年度末現在高
河内財産区財政調整基金	5,416	△ 229	5,188

3 まとめ

平成 26 年度は、財政調整基金からの繰入金歳入全体の 61.8 パーセントを占めており、今後においても、歳入全体に占める繰入金の比率は高くなるものと考えられることから、より効率的な財政運営に取り組まれるよう望むものである。

なお、木材の利活用など新たな歳入確保についても検討を望むものである。

平成 2 6 年 度

波 瀬 財 産 区 会 計
歳 入 歳 出 決 算 審 査 意 見 書

津 市 監 査 委 員

凡 例

- 1 文中及び表中に用いる金額は、原則として千円未満を四捨五入した。
- 2 文中及び表中に用いる比率は、原則として小数点以下第2位を四捨五入した。
- 3 文中及び表中に用いる面積は、原則として1平方メートル未満を四捨五入し、体積は、原則として1立方メートル未満を四捨五入した。
- 4 上記のように表記した結果、文中及び表中の合計数値とその内訳の累計値とは、一致しない場合がある。
- 5 表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「0」「0.0」・・・金額、比率において、零又は該当数値がないもの若しくは単位未満のもの
 - 「-」・・・・・・比率において、±1,000%以上のもの
 - 「△」・・・・・・金額、比率において、負数のもの

平成 26 年度波瀬財産区会計歳入歳出決算審査意見

第 1 審査の対象

審査の対象は、平成 26 年度波瀬財産区会計歳入歳出決算、決算に関する証書類、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書である。

第 2 審査の期間

審査の期間は、平成 27 年 8 月 31 日から同年 10 月 27 日までである。

第 3 審査の方法

審査の方法は、同会計の歳入歳出決算について、主に次の諸点に着眼し、関係書類により照合審査するとともに、関係職員に説明を求め、例月現金出納検査の結果も参考とした。

- 1 決算の計数は、正確に表示されているか。
- 2 決算書等は、法令の定めるところにより、適正に作成されているか。
- 3 予算は、適正に執行されているか。

第 4 審査の結果

審査の結果、同会計の歳入歳出決算の計数は正確で、決算書等はいずれも適正に作成されており、予算の執行については、適正に執行されているものと認めた。歳入歳出決算の状況等は、次のとおりである。

1 歳入歳出決算の状況

歳入決算額は 70 万 5 千円 (表 1 参照)、歳出決算額は 52 万 3 千円 (表 2 参照) で、歳入歳出差引額は 18 万 2 千円である。

歳入及び歳出それぞれの内訳は、以下のとおりである。

(1) 歳 入

歳入の内訳は表 1 のとおりで、決算額の主なものは、繰入金 46 万円、繰越金 18 万 1 千円である。

表 1 歳入内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成26年度				平成25年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	予算比				
財産収入	63	64	9.1	101.6	153	22.7	△ 89	△ 58.2
繰入金	460	460	65.2	100.0	189	28.0	271	143.4
繰越金	181	181	25.7	100.0	239	35.5	△ 58	△ 24.3
諸収入	0	0	0.0	0.0	92	13.6	△ 92	△ 100.0
計	704	705	100.0	100.1	674	100.0	31	4.6

(2) 歳出

歳出の内訳は表2のとおりで、決算額は、議会費47万1千円、総務費5万2千円である。

表2 歳出内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成26年度				平成25年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	執行率				
議会費	535	471	90.1	88.0	471	95.5	0	0.0
総務費	69	52	9.9	75.4	22	4.5	30	136.4
予備費	100	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	704	523	100.0	74.3	493	100.0	30	6.1

2 財産に関する調書

財産の平成26年度中の増減高及び平成26年度末現在高は、次のとおりである。

(1) 公有財産

公有財産の状況は表3のとおりで、土地の合計面積に増減はなく、平成26年度末現在高は100万9,635平方メートルである。

立木の推定蓄積量は、平成26年度中に2,020立方メートル増加し、平成26年度末現在高は11万8,326立方メートルである。

出資による権利については、平成26年度中の増減はなく、平成26年度末現在高は57万円である。

表3 公有財産の状況

区分		単位	平成25年度末現在高	平成26年度中増減高	平成26年度末現在高	
土地	宅地	m ²	1,208	0	1,208	
	雑種地・原野	m ²	887	0	887	
	山林	直営	m ²	1,006,806	0	1,006,806
		貸付	m ²	733	0	733
	合計	m ²	1,009,635	0	1,009,635	
立木の推定蓄積量		m ³	116,306	2,020	118,326	
出資による権利		千円	570	0	570	

(2) 基金

基金は波瀬財産区財政調整基金で、表4のとおり平成26年度中に42万1千円減少し、平成26年度末現在高は1,434万7千円である。

表4 基金の状況

(単位：千円)

区 分	平成25年度末現在高	平成26年度中増減高	平成26年度末現在高
波瀬財産区財政調整基金	14,767	△ 421	14,347

3 まとめ

平成26年度は、財政調整基金からの繰入金が歳入全体の65.2パーセントを占めており、今後においても、同基金からの繰入金を必要とする状況が考えられることから、より効率的な財政運営に取り組まれるよう望むものである。

なお、木材の利活用など新たな歳入確保についても検討を望むものである。